



近年、牛白血病（Bovine Leukemia：BL）への関心はますます高まっています。特に夏は牛白血病ウイルス（BLV）を媒介するアブやサシバエが増える時期です。これらが牛に接触する機会を減らすことで陽性率を低減させた論文を紹介します。

効果的な牛白血病ウイルス媒介昆虫の防除について

概要・背景

BLV感染の要因として牛舎内の媒介昆虫（アブやサシバエ）の密度、感染牛の数、感染牛の体内ウイルス量がある。このうち媒介昆虫の牛舎内の数を減らして牛群の陽性率を下げることを目的とし、今回の試験を実施した。

材料

北海道東部の酪農家（搾乳牛約150頭）において、2014年と2015年の6～11月に牛舎周囲にハエの侵入を防ぐ防虫ネットを設置し、抗体陽性率、サシバエの数等を調査。

結果

①牛群の陽性率

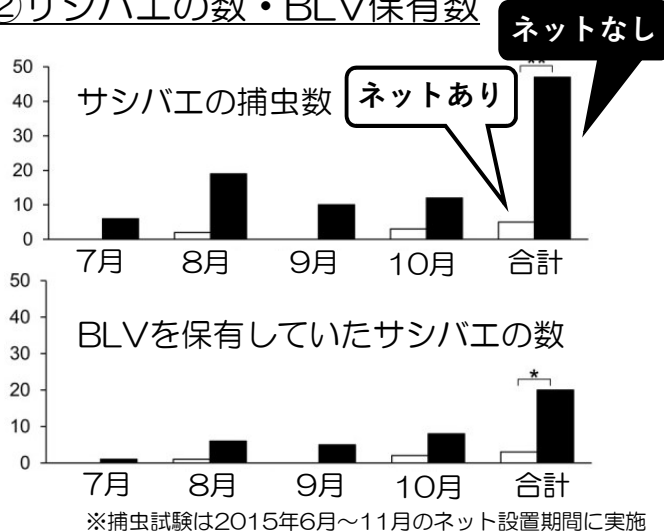
対策なし

この間（6～11月）ネット設置

調査月	2013年7月	2014年3月	2015年4月	2016年4月
抗体陽性率	52.1%	49.4%	36.2%	29.0%

サシバエなどの吸血昆虫が多くなる時期に、ネットによる侵入防止策を行うことで新規感染が低減され、**陽性率が低下した**。

②サシバエの数・BLV保有数



搾乳牛舎には防虫ネットを設置、乾乳牛舎には設置せずに、それぞれの牛舎で1時間、捕虫バッグにてサシバエを捕獲。両牛舎で捕獲されたサシバエの数と、そのうちBLVを保有していたサシバエの数を比較。

防虫ネットがあることで
・牛舎内のサシバエ数減少
・BLV保有サシバエ数減少 が確認された。
このことから、**防虫ネットの設置はBLV感染リスクの低減に有効**である。

牛白血病は発症すると廃用となるため、経済的損失が大きい疾病の一つです。今回の論文ではその媒介昆虫対策の一つとして防虫ネットを設置し、その効果を検証しています。これらの媒介昆虫を減らすことはBLV感染牛を減らすだけでなく、媒介昆虫そのものによる牛のストレス軽減にもなり、乳量や受胎率に良い影響があるとの報告もあります。

併せて適切な対策（導入時の検査、陽性牛群と陰性牛群の分離、陽性牛の優先淘汰など）を実施することでさらに陽性率を下げる事が可能です。